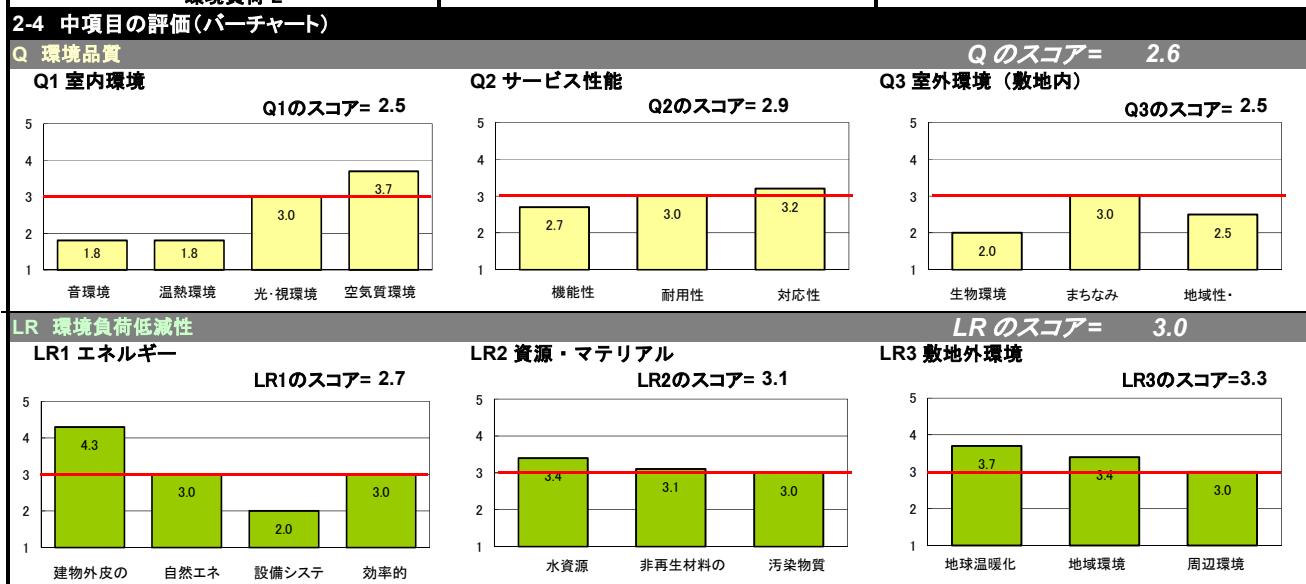
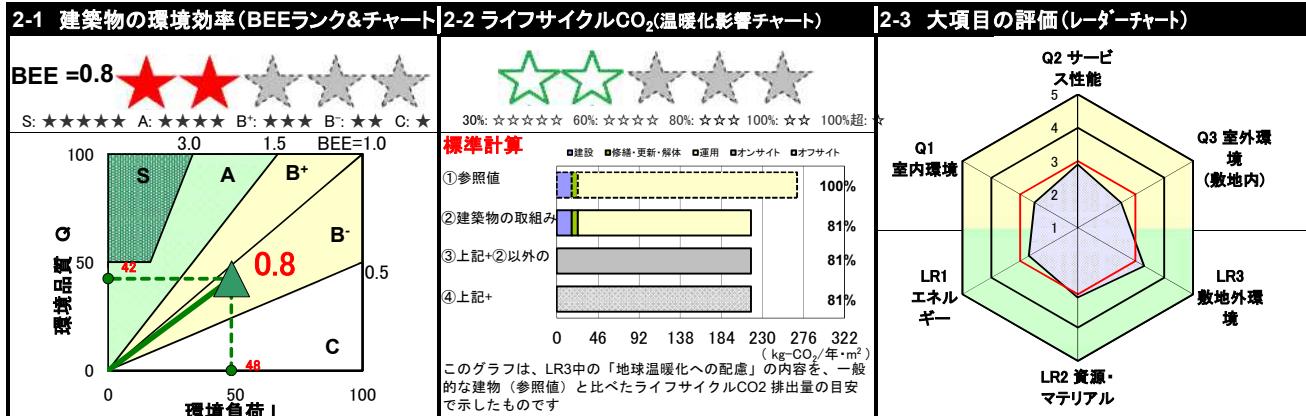


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)フィール浜松高丘北店	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中央区高丘北二丁目	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、近隣商業地域、法	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場、	評価の段階	
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年4月28日
敷地面積	9,834 m ²	作成者	野崎 充敏
建築面積	2,750 m ²	確認日	2025年4月28日
延床面積	2,569 m ²	確認者	野崎 充敏



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。 物販店舗として、コストを考慮しつつも店舗空間の快適性や利便性及び、省エネ効果を考慮した計画とした。		0
Q1 室内環境		Q3 室外環境 (敷地内)
室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。		周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。
LR1 エネルギー		LR3 敷地外環境
効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。		ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑えた計画とした。
Q2 サービス性能		
天井高さをH=3.6m以上とし、室内の快適性と室内環境の向上につつ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。		
LR2 資源・マテリアル		
節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	(仮称)フィール浜松高丘北店	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	----------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5	ふつう		
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5	がんばろう		
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5	ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価	凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について記述した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目									
	得点		3.2							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)										
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能				
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備				
			3.2	3.2.1	③	昼光制御				
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数				
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
				2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
				2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔				
				2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔				
				2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔				
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。	Q-3	1	⑤	生物環境の保全と創出						
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上					
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。	LR-1	1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制						
		2	⑧	自然エネルギー利用						
		3	⑨	設備システムの高効率化						
		4	4.1	⑩	モニタリング					
			4.2	⑩	運用管理体制					
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。	LR-2	1	⑪	節水						
		2	1.1	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無				
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無				
		2	2.1	2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用				
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材				
		3	2.6	⑫	⑬	部材の再利用可能性向上への取組み				
			3.1	3.2.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用				
				3.2.2	⑬	消火剤				
				3.2.3	⑬	断熱材				
					⑭	冷媒				
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。	LR-3	1	⑭	地球温暖化への配慮						
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善					
"災害に強いしづおか"の形成(Disaster)										
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性				
				2.1.2	⑯	免震・制振性能				
		2.4	2.4.1	2.4.1.1	⑯	空調・換気設備				
			2.4.2	2.4.2.1	⑯	給排水・衛生設備				
		2.4.3	2.4.3.1	⑯	電気設備					
		2.4.4	2.4.4.1	⑯	機械・配管支持方法					
		2.4.5	2.4.5.1	⑯	通信・情報設備					
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)										
■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑲空間のゆとり) バリエフリー法誘導基準相当の計画とした。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑲	ユニバーサルデザイン計画				
	3	3.1	3.1.1	3.1.2	⑯⑲	階高のゆとり				
				3.1.2	⑯⑲	空間の形状・自由さ				
■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。	Q-3	3	3.1	⑳	⑳	地域性への配慮、快適性の向上				
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)										
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑯まちなみ・景観への配慮/⑭敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた植栽計画とした。	Q-3	1	⑤	生物環境の保全と創出						
	2	⑯	⑯	⑯	⑯	まちなみ景観への配慮				
	3	3.2	⑯	⑯	⑯	敷地内温熱環境の向上				
■敷地外環境対策 (⑰持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし	LR-2	2	2.5	⑰	⑰	持続可能な森林から産出された木材				
	LR-3	2	2.2	⑮	⑮	温熱環境悪化の改善				